

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市大東町商業施設設計画(駐車場棟B)	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県安城市大東町1058-2の一部	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,750時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	7,910 m <sup>2</sup>	作成者	菅野 友弥
建築面積	3,927 m <sup>2</sup>	確認日	2023年9月20日
延床面積	23,283 m <sup>2</sup>	確認者	平野 譲

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆

環境品質 C (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	#DIV/0!
③上記+②以外の	#DIV/0!
④上記+	#DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

機能性	N.A.
耐用性	2.9
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

生物環境	3.0
まちなみ	2.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

水資源	2.2
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	N.A.
地域環境	3.3
周辺環境	3.2

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">23.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)安城市大東町商業施設計画(駐車場棟B)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.6</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									-	
<b>1 音環境</b>									-	
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>									-	
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-		
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>									-	
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-		
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>4 空気質環境</b>									-	
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-		
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-		
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>2.9</b>	
<b>1 機能性</b>									-	
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-		
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.9</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	2.9	0.52	-	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	4.0	0.09	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-		
1 空調・換気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>0.4</b>	<b>2.8</b>	0.48	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		②	壁長さ比率:0.3未満	<b>0.3</b>	<b>2.2</b>	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.31	-	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>0.3</b>	<b>3.3</b>	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.19	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	5.0	0.19	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.13	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	-	-	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.25	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.25	-	-	-			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						<b>0.57</b>	-	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	<b>2.0</b>	0.40	-	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>2.5</b>	0.30	-	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>						<b>0.40</b>	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				<b>3.0</b>	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	-	-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの効率化</b>			BEI=	<b>3.0</b>	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>				<b>1.0</b>	<b>3.0</b>	1.00	-	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>1.0</b>	<b>3.0</b>	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						<b>0.30</b>	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>0.1</b>	<b>2.2</b>	0.15	-	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>				<b>3.0</b>	<b>1.0</b>	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>0.6</b>	<b>3.0</b>	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>0.6</b>	<b>2.7</b>	0.63	-	-	-	<b>2.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	躯体と内装材は容易に分離可能	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>0.2</b>	<b>3.6</b>	0.22	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>0.6</b>	<b>4.0</b>	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡系断熱材の使用なし	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						<b>0.30</b>	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>0.5</b>	<b>3.3</b>	0.50	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			燃焼機器の使用なし	-	<b>5.0</b>	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>2.5</b>	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>0.5</b>	<b>3.2</b>	0.50	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>4.4</b>	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明・広告物照明はチェックリストの過半を満足	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)安城市大東町商業施設設計画(駐車場棟B)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:23.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市大東町商業施設計画(駐車場棟B)

計画上の配慮事項	
総合	愛知県安城市に計画された立体駐車場である。敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	・評価対象外
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮する。
LR1 エネルギー	・LED照明を採用し、省エネルギーへ配慮する。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上げ材の分別が容易な計画とし、部材の再利用可能向上へ配慮する。
LR3 敷地外環境	・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。
その他	